

## メッセージアウトライン

日付	2011年3月13日
単元	ルカの福音書
テーマ	神の愛
タイトル	放蕩息子
テキスト	ルカ15:11-24
参照箇所	
暗唱聖句	ルカ15:18

<b>導入</b>	今日のお話しは、昔から「放蕩息子のたとえ」と言われてきたお話しです。イエス様のたとえ話しの中でも、とても有名なお話しの一つです。
<b>I</b>	<b>ある人に二人の息子がいました(11-12節)</b> A. 二人の息子を持つお金持ちがいました B. 弟は今の生活から抜け出して自由に暮らしたいと思っていました C. 弟は父親から財産をわけてもらいました
<b>II</b>	<b>弟は家を出て行きました(13-19節)</b> A. 弟は財産を手にして遠い町へ旅立ちました B. 弟は遊んで財産を使い果たしてしまいました C. 弟は食べるのにも困って家に帰ろうと思いました
<b>III</b>	<b>父親は帰ってきた息子を喜んで迎え入れました</b> A. お父さんは、帰ってきた息子を見つけました B. お父さんは、帰ってきた息子を喜んで迎えました C. お父さんは帰ってきた息子のために宴会をしました
<b>結論</b>	<b>お父さんは息子のことを愛していました</b>
<b>適用</b>	1. お父さんがこの息子を赦し、喜んで家に迎え入れたように、私たちも悪い事をした時に、「自分が悪かった」と気がついて、神様におわびするなら、赦して下さいことを知しましょう。 2. イエス様は今日のお話しで、私たち一人一人に対する父なる神様の愛とあわれみが、どのようなものであるかを教えておられます。私たちが罪の中にある時でも、自分の罪を認めて神様に「ごめんなさい」と悔い改めのお祈りをするならば必ず赦して下さい。「もう遅すぎる」ということも、「もう手遅れだ」ということもありません。いまみんなの中で、自分の罪を示される人がいるならば、神様に悔い改めのお祈りをしましょう。
<b>備考</b>	

